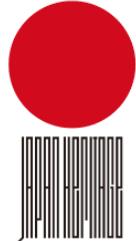
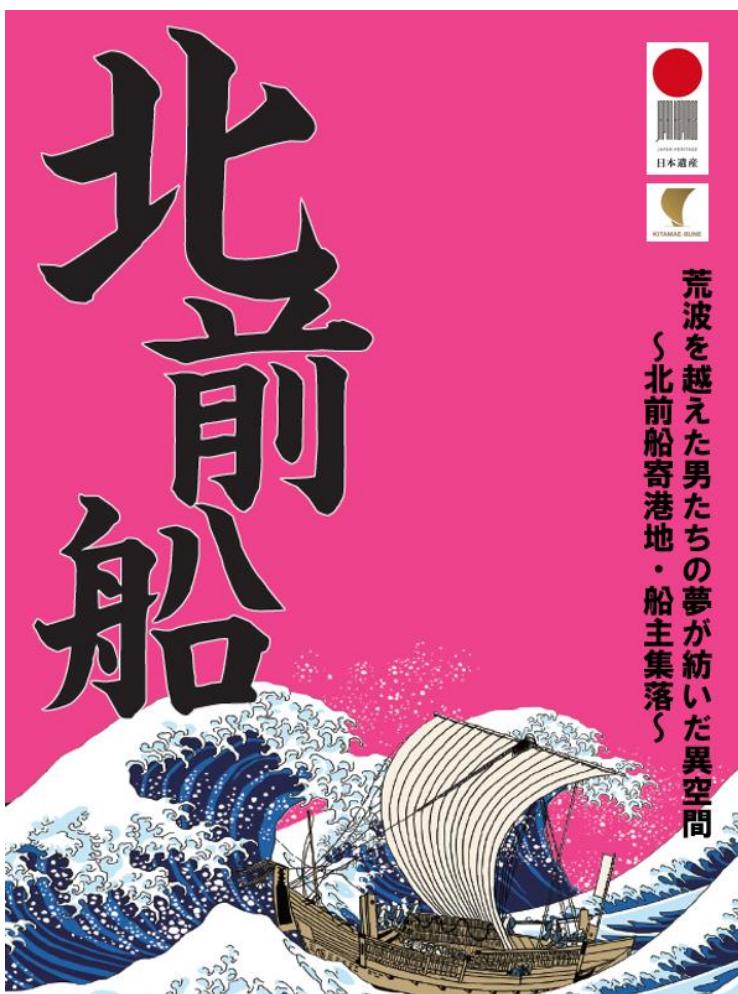


報告書



JAPAN HERITAGE
日本遺産

北前船日本遺産推進協議会 記念大会 in 加賀



2024年11月21日 (木)



KITAMAE-BUNE

主催 / 北前船日本遺産推進協議会
協力 / 一般社団法人北前船交流拡大機構

北前船日本遺産推進協議会 御礼ご挨拶



北前船日本遺産推進協議会
会長／加賀市長
宮 元 陸

このたびの「北前船日本遺産推進協議会記念大会in加賀」では、文化庁の都倉長官をはじめ全国各地より多くの皆様にご参加いただき、能登半島地震被災地への激励と、北前船文化の推進にむけた有意義な大会開催となりましたことに、心からの御礼を申し上げます。

記念大会では、本年元日に発生しました能登半島地震からの復興支援を大きな目的にしておりました。我々協議会の輪島市、志賀町に深刻な被害があり、今までに復興に向けて確実に進んでいる途上ですが、加盟自治体の皆様からは、能登地域のみならず北陸に対する手厚いご支援をいただいており、感謝の念に堪えません。遠く江戸時代に北前船が結んだ縁が、新たな絆として、より強固なものとなって現代に再興しているとしか考えられず、胸を熱くしています。

今後も、北前船文化を軸としたネットワークに、この大会での成果を取り入れ、北前船という唯一無二の文化遺産の価値を国内外に発信していくことで、地域の文化経済の発展や観光振興に繋げていきたいと考えております。

結びに、開催にあたり多大のお力添えを賜りました北前船交流拡大機構、北前船日本遺産推進協議会加盟の自治体をはじめ、多くの関係者の皆様に心からの感謝を申し上げますとともに、協議会の絆を一層深め前進していくことを祈念し、私の御礼の言葉といたします。

北前船日本遺産推進協議会 御礼ご挨拶



北前船日本遺産推進協議会

輪島市長

坂 口 茂

去る11月21日、石川県加賀市において「北前船日本遺産推進協議会記念大会in加賀」に多数の皆様をお迎えし成功裏に開催することができました。これもひとえに、全国各地からご参加いただいた皆様、そして大会運営にご尽力いただいた加賀市をはじめ関係者の皆様のご支援とご協力の賜物であり、心より感謝申し上げます。

本大会では、北前船がもたらした歴史的・文化的な価値について改めて認識を深めるとともに、地域間連携の可能性について多くの貴重な意見交換が行われ、大変有意義な時間となりました。本市としても、この成果を活かし、北前船の歴史遺産を次世代に継承しながら地域活性化に取り組んでまいる所存です。

また、本市は先般の能登半島地震で甚大な被害を受けましたが、今回の大会を通じて、全国の皆様から寄せられた温かいご支援への感謝の思いをお伝えする機会をいただけましたことに、深く感謝申し上げます。皆様からのご厚情に支えられ、復旧・復興への歩みを進めておりますことを改めてお伝えいたします。

今後とも、北前船を通じた地域の発展や文化交流の推進に向け、皆様のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本大会にご参加いただいた皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げ、御礼のご挨拶とさせていただきます。

文化庁長官 ご来賓ご挨拶



文化庁長官

都 倉 俊 一

文化庁長官の都倉でございます。まずは1月元旦に起きました能登半島地震被災地の皆様に改めて心からのお悔やみとお見舞いを申し上げたいと思います。

私も4月の終わりにお伺いしました。実は家内が輪島塗が大好きで、本当に食器棚には輪島塗がたくさん並んでおりますが、そこで親しくしている工房も焼けてしまい、跡形もなく消滅してしまっておりました。これを見た実感というものはなかなか言葉には言い尽くせませんが、私はその方の言葉が非常に印象に残りました。それは、『この悲劇・惨劇はもう取り返しがつかない。先祖代々からの漆の壁などは全部消滅したが、我々は、この輪島塗の誇り、伝統・技術はなくすことはない』というお話でした。

さきほど、創造的復興という言葉を拝見しました。まさにこの輪島の人たちの気持ちを表しているということでありまして、日本の宝を消滅させるわけにはいかないということは、国的基本であります。文化庁といたしましては、物心両面、マンパワーも含めて、ぜひ御協力したいと考えている次第であります。

さて本日、「第35回北前船寄港地フォーラムin加賀・福井」、「北前船日本遺産推進協議会記念大会in加賀」が盛大に開催されますことを、心よりお慶び申し上げます。

今日、「地方創生」は、我が国のもっと重要なテーマのひとつです。これを実現するための起爆剤として、政府は「地域が持つ潜在力」を掲げておますが、地域が大切にしてきた文化の力こそ、その潜在力の鍵となるものと私は確信しております。

平成27年に創設されたこの「日本遺産」は、まさに文化の力で地域の活性化を図るものであります。

その創設に際しては、私も大変親しくさせていただいております公明党・浮島智子衆議院議員から、当時の安倍総理への御発案・御進言など、大変な御尽力があつたところと聞き及びます。浮島議員は、ご承知の通り、著名なバレリーナであり、芸術家でもありますので、色々な形で文化行政を応援いただいております。これまでの十年間の日本遺産の歩みの中でも、力強い御応援をいただいて、現在、全国47都道府県に104件の日本遺産を認定し、さらなる振興に取り組んでおります。この場をお借りして、改めて御礼を申し上げたいと思います。

北前船につきましては、御存知のとおり、平成29年、「荒波を越えた男たちの夢が紡いた異空間～北前船寄港地・船主集落～」のストーリーが認定されております。当初、その構成自治体は、11の市町でしたが、本年、新潟県村上市・福井県美浜町・岡山県岡山市を迎えることとなりました。

この広がりは、まさに北前船が辿った航路の再現、往時のネットワークの現代的な再構築とも言うべきものと受け止めております。日本遺産104件の中でも、指折りの盛り上がりを実現いただいているのは、他でもなく北前船日本遺産推進協議会や各構成自治体、北前船交流拡大機構の皆様の精力的な御活動のたまものにはかなりません。改めて、敬意を表します。

本日、このフォーラムにお伺いしたことで、北前船の持つ力強さを、私としても肌で実感しております。文化庁としましても、この北前船をはじめとする日本遺産を是非とも多くの方に知っていただき、日本遺産を通じた文化の価値の発揮、地域の活性化を図るため、引き続き全力を尽くしてまいります。

結びとなりますが、本フォーラムの開催に御尽力いただいた関係の皆様方に改めて感謝を申し上げますとともに、日本遺産・北前船のさらなる発展を祈念し、私からのご挨拶とさせていただきます。

北前船日本遺産推進協議会記念大会 in 加賀

2024年11月21日（木） 山代温泉みやびの宿 加賀百万石（本館南2階 剣梅鉢）

〈司会進行〉 北前船日本遺産推進協議会事務局 本宮 重人

開場（14:30～）

被災された輪島市・志賀町に対する北前船日本遺産推進協議会
加盟50市町からの応援メッセージを記載した色紙を展示

参加者紹介

（一社）北前船交流拡大機構 専務理事 浅見 茂

感謝状授与

秋田市観光文化スポーツ部長 納谷 信広

（一社）北前船交流拡大機構 上席研究員 中野 秀治

〈授与者〉 北前船日本遺産推進協議会会长 加賀市長 宮元 陸

記念撮影

第1部（15:15～15:45）

動画の投影

『能登半島地震から半年～復旧・復興の歩み』

<https://www.youtube.com/watch?v=MdMv98ahoFA>

開会の挨拶

北前船日本遺産推進協議会会长 加賀市長 宮元 陸

歓迎の挨拶

輪島市長 坂口 茂

志賀町教育委員会教育長 間嶋 正剛

小松市長 宮橋 勝栄

来賓からのご挨拶 文化庁長官 都倉 俊一

第2部（15:45～16:10）

北前船日本遺産推進協議会加盟50自治体代表挨拶

岡山市長 大森 雅夫

※坂口輪島市長・間嶋志賀町教育長へ色紙の授与

男鹿市長 菅原 広二

※珠洲市観光交流課長・能登町へ色紙の授与

野辺地町長	野村 秀雄
鰭ヶ沢町長	平田 衛
由利本荘市長	湊 貴信
佐渡市長	渡辺 竜五
(一社) 北前船交流拡大機構 参与	浜名 正勝

第3部 (16:10~17:20)

各自治体からの活動報告

小浜市 日本遺産プレミアム認定「御食国若狭と鯖街道」	小浜市長	杉本 和範
北前船が繋いだ泉佐野市とにかく市のご縁	とにかく市長	市川 雄次
現代版北前船の取組について	備前市長	吉村 武司

令和6年度 日本遺産認定 3自治体からのプレゼンテーション

「北前船日本遺産を活用した新規認定 3市町の地域活性化取組について」

美浜町長	戸嶋 秀樹
村上市長	高橋 邦芳
岡山商工会議所 会頭	松田 久

閉会の挨拶

北前船日本遺産推進協議会 副会長 尾道市長 平谷 祐宏



都倉俊一文化庁長官を囲んでの記念撮影



浅見 茂
(一社) 北前船交流拡大機構
専務理事



納谷 信広
秋田市観光文化スポーツ部
部長



中野 秀治
(一社) 北前船交流拡大機構
上席研究員



宮元 陸
北前船日本遺産推進協議会
会長
加賀市長



動画投影『能登半島地震から
半年～復旧・復興の歩み』



坂口 茂
輪島市長



間嶋 正剛
志賀町教育委員会
教育長



宮橋 勝栄
小松市長



都倉 俊一
文化庁長官



大森 雅夫
岡山市長



菅原 広二
男鹿市長



協議会加盟 50 自治体
代表による激励挨拶



野村 秀雄
野辺地町長



平田 衛
鰭ヶ沢町長



湊 貴信
由利本荘市長



渡辺 竜五
佐渡市長



浜名 正勝
(一社) 北前船交流拡大機構
参与



平谷 祐宏
北前船日本遺産推進協議会
副会長
尾道市長



宮元協議会会長より
納谷秋田市部長へ
感謝状の授与



宮元協議会会長より
中野機構上席研究員へ
感謝状の授与



大森岡山市長より
坂口輪島市長へ
色紙の授与



大森岡山市長より
間嶋志賀町教育長へ
色紙の授与



菅原男鹿市長より
田中珠洲市観光交流課長へ
色紙の授与



会場の様子

各自治体からの活動報告



杉本 和範
小浜市長

小浜市 「日本遺産プレミアム認定「御食国若狭と鯖街道」」



メインタイトル

海と都をつなぐ若狭の往来文化遺産群

「海のある奈良」と例えられる、海外・日本海沿岸諸国・都との交流を示す文化遺産群



市川 雄次
にかほ市長

にかほ市 「北前船が繋いだ泉佐野市とにかく市のご縁」

北前船日本遺産推進協議会 記念大会 in 加賀

北前船が繋いだ 「泉佐野市」と「にかほ市」のご縁



吉村 武司
備前市長

備前市

「現代版北前船の取組について」



令和6年度 日本遺産認定3自治体からのプレゼンテーション 「北前船日本遺産を活用した新規認定3市町の地域活性化取組について」



戸嶋 秀樹
美浜町長

美浜町 「北前船日本遺産を活用したプロジェクト始動」



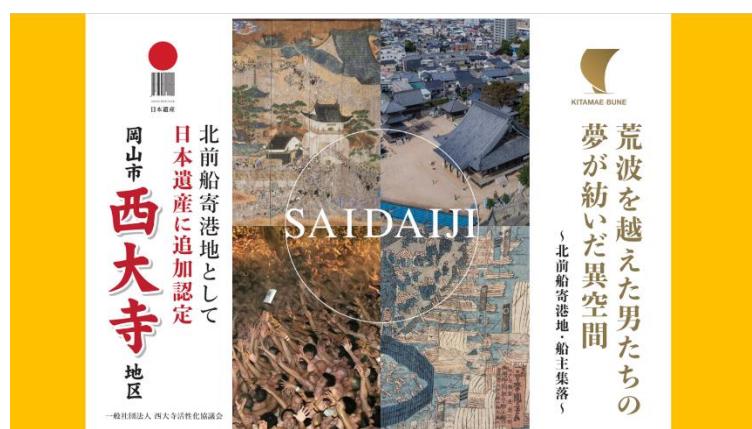
高橋 邦芳
村上市長

村上市 「北前船日本遺産を活用した – まちづくり –」



松田 久
岡山商工会議所 会頭

岡山市 日本遺産認定を受けて 「西大寺と北前船」



協議会加盟50自治体の首長による応援メッセージ

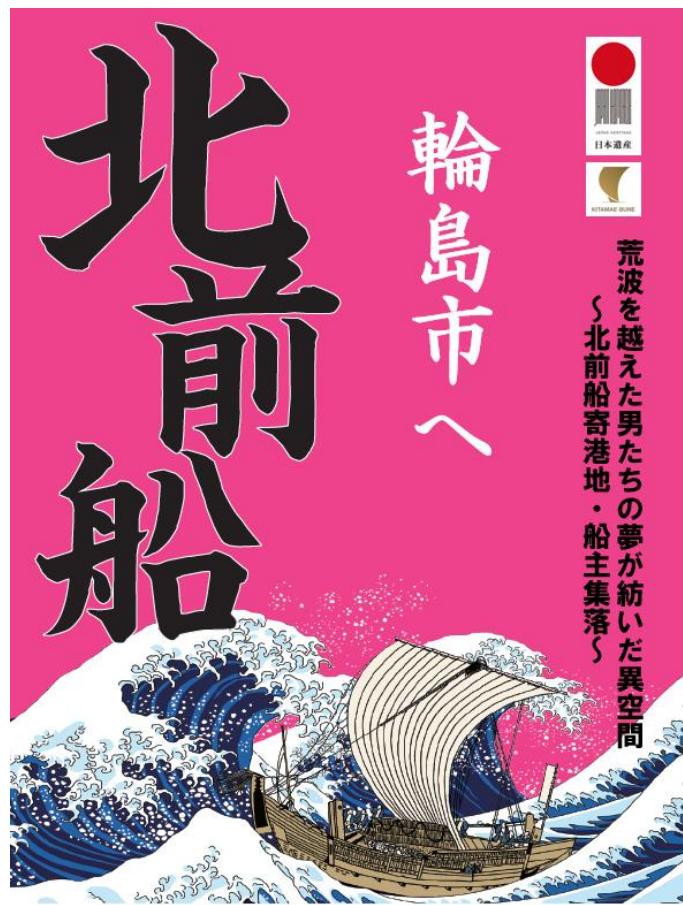
令和6年1月に発生した能登半島地震により、大きな被害を受けた能登地域をはじめとする北陸地域に対する震災からの復興に向けた応援を目的として、北前船日本遺産推進協議会を構成する50自治体の首長による応援メッセージを色紙にして、輪島市、志賀町をはじめ、珠洲市、能登町の各市町へ大会会場でお渡しました。



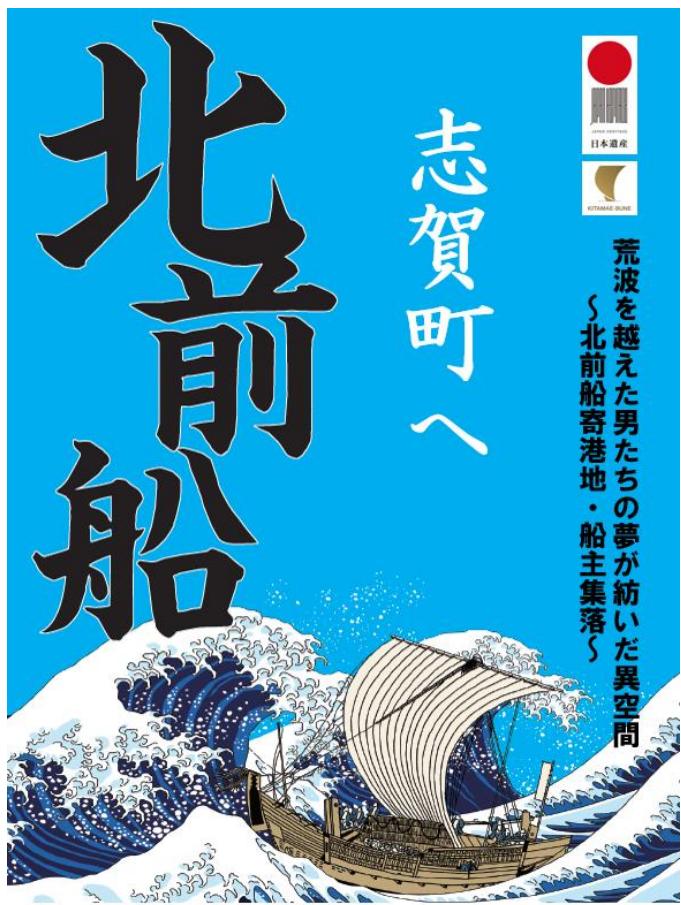
会場に掲出した50自治体の首長による応援メッセージ



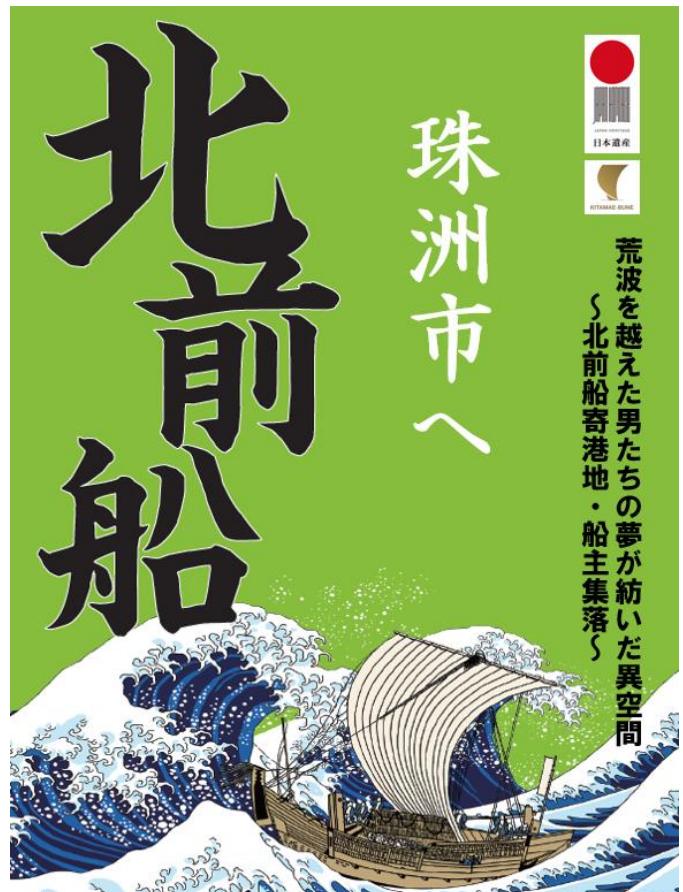
応援メッセージの色紙



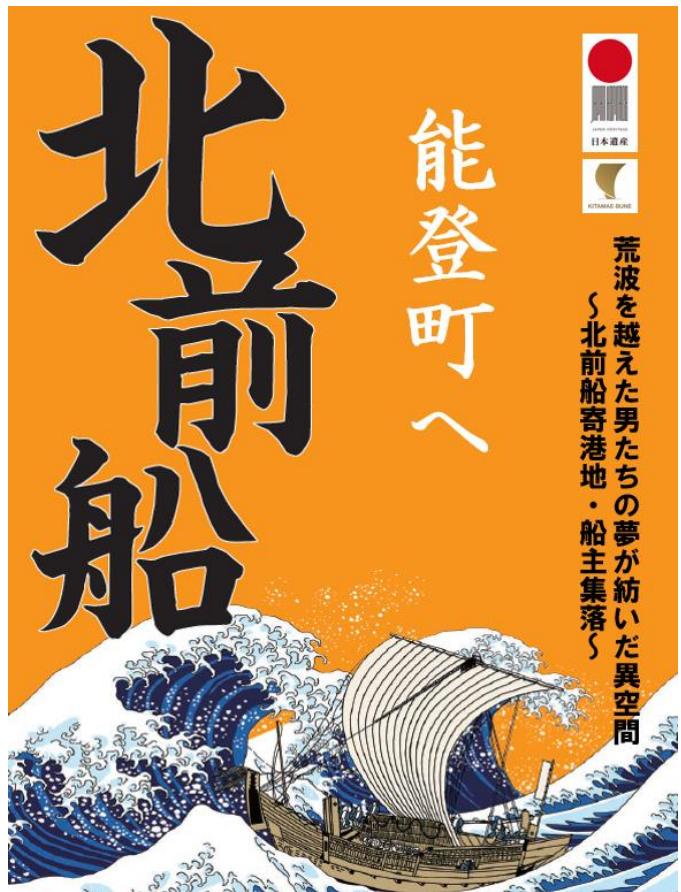
北前船日本遺産推進協議会



北前船日本遺産推進協議会



北前船日本遺産推進協議会



北前船日本遺産推進協議会



加賀市長
宮元 陸

厳しい状況を乗り越え、ともに歩んでまいりましょう。一日でも早く皆様が心穏やかな日々を過ごせますよう、心よりお祈り申し上げます。



秋田市長
穂積 志

災害で亡くなられた方々に、謹んで哀悼の意を表しますとともに、被害を受けた皆様にお見舞いを申し上げます。一日も早い復興をお祈り申し上げます。



酒田市長
矢口 明子

向かい風に帆を立て荒波を乗り越えた北前船のように、被災地の皆様が困難を乗り越え、力強く復興されることを心よりお祈り申し上げます。



新潟市長
中原 八一

犠牲になられた方々に深く哀悼の意を表するとともに、被災された皆様が一日も早く平穏な日常を取り戻せるよう、心よりお祈りしています。



函館市長
大泉 潤

亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された方々にお見舞いを申し上げます。一日も早い復興をお祈り申し上げます。



鷹ヶ沢町長
平田 衛

被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。能登半島のすばらしい風景と、いつもの毎日が一日も早く戻されることをお祈り申し上げます。



敦賀市長
米澤 光治

能登地域の一日も早い復旧に向け、当市としても支援を続けてまいります。共に歩み、支え合い、復興への道を一步ずつ築いていきましょう。



松前町長
若佐 智弘

先の地震、そして豪雨により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。皆様の安全と、一日も早く日常生活が戻りますよう、心よりお祈り申し上げます。



深浦町長
吉田 満

この度の震災に対し、心からお見舞い申し上げます。魅力的な観光資源に恵まれたこの地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。



長岡市長
磯田 達伸

能登半島地震で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げるとともに、一日も早い復興をお祈りいたします。寒い日が続きますが、御自愛ください。

糸



南越前町長
岩倉 光弘

南越前町は今後も被災地域の皆様に寄り添い、出来る限りの支援に全力で取り組んでまいります。一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。



小樽市長
迫 俊哉

このたびの災害により被災された皆様に、心からお見舞い申し上げます。一日も早い復旧をお祈りしております。



石狩市長
加藤 龍幸

能登の美しい自然と人々の温かさ。北海道石狩市は、これからも能登に思いを馳せてまいります。一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。



野辺地町長
野村 秀雄

令和6年能登半島地震により被災された皆様へ心よりお見舞い申し上げます。被災地の1日も早い復旧・復興を願っております。



にかほ市長
市川 雄次

被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、「能登の里山里海」に代表される歴史と文化のまちの一日も早い復興をお祈りしております。



男鹿市長
菅原 広二

「日本海側の半島」という同じ境遇であり、この度の災害においては非常に心を痛めています。一日も早い復興を心より祈念しております。

糸



能代市長
齊藤 滋宣

この度の地震及び豪雨被害に遭われた皆さんに、謹んでお見舞い申し上げます。皆さまが一日も早く平穏な生活に戻られることをお祈り申し上げます。



由利本荘市長
湊 貴信

自然・食・文化の魅力あふれる能登の復興を心よりお祈り申し上げます。北前船が紡いた糸でスクラムを組み、一緒に頑張りましょう！



佐渡市長
渡辺 龍五

令和6年能登半島地震により被害に遭われたこと心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧と平穏な日常が戻ることを願っております。



上越市長
中川 幹太

一日も早く復旧・復興が進み、被災された皆様が安全・安心な生活とかけがえのない日常を取り戻すことができますよう、心よりお祈り申し上げます。



大阪市長
横山 英幸

令和6年能登半島地震で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。



宮津市長
城崎 雅文

被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。皆様の頑張りが新しい未来を創り出します。支え合う心を大切に、共に力強く復興への道を歩んでいきましょう。



富山市長
藤井 裕久

能登は必ず輝きを取り戻すと信じています。北前船が紡いだ絆を結集して、一日も早い復旧・復興に向け、歩み続けましょう。頑張ろう能登！



高岡市長
角田 悠紀

被災された皆様の生活と被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。同じ北陸地域の一員として手を携え、共に頑張ってまいりましょう。



小松市長
宮橋 勝栄

被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。今後も出来る限りの支援を行い、一日も早く心安らぐ日常を取り戻せるよう尽力して参ります。



坂井市長
池田 穎孝

一日でも早い復興となるよう坂井市も応援しています。復興後を見据え、お互いに手を取り、北陸の素晴らしい魅力を発信してまいりましょう。

絆



小浜市長
杉本 和範

一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。北前船寄港地・船主集落のつながりが復興のさらなる後押しとなることを祈念致しております。



神戸市長
久元 喜造

被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。神戸で受け継がれてきた経験を活かし、寄り添った支援をさせていただきたいと考えております。



高砂市長
都倉 達殊

被災された全ての方々に心よりお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復興と、皆様の生活が一日も早く平穏に戻ることを心よりお祈りしております。



新温泉町長
西村 銀三

日本海という大きな「道」でつながった北陸地方に対し、今後より深い交流を望みますとともに、被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。



鳥取市長
深澤 義彦

1月の地震、9月の豪雨と度重なる災害に見舞われた輪島市、志賀町、珠洲市、能登町の皆様には心よりお見舞いと、一日も早い復興をお祈り申し上げます。



尾道市長
平谷 祐宏

このたび被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。北前船寄港地としての絆をもつ地域の皆様の一日も早い復興をお祈り申し上げます。頑張ろう！



呉市長
新原 芳明

令和6年能登半島地震および令和6年奥能登豪雨で被災された方々にお見舞い申し上げますとともに、1日も早く復興されますよう祈念致します。



赤穂市長
牟礼 正穂

被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げます。一日も早く復旧・復興が進み、皆様に平穏な日々が戻ることをお祈りいたします。



洲本市長
上崎 勝規

能登半島地震により被害に遭われた方々に、哀悼の意を表し、お見舞い申し上げます。一日も早い復興と平穏な日々の戻りを心よりお祈りいたします。



浜田市長
久保田 章市

被災された皆様へ心よりお見舞い申し上げます。早期復興に向けたご尽力に深く敬意を表し、一日も早く笑顔が戻りますようお祈り申し上げます。



倉敷市長
伊東 香織

地震及び水害により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧と復興を祈念致しますとともに、応援いたします。



鶴岡市長
皆川 治

このたびの災害により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復興と能登の皆様の安全をお祈りしております。



出雲崎町長
仙海 直樹

被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。復興に携わる皆様を、心から応援いたします。



金沢市長
村山 卓

被災された皆様にお見舞い申し上げます。今後とも、市民の協力による支援も得て、早期復旧・復興に向けて応援してまいります。

糸



姫路市長
清元 秀泰

被災地の皆さまの安全と、一日も早い復旧・復興を心からお祈り申し上げます。北前船文化を世界に発信していくことで、被災地の復興を支援してまいります。



たつの市長
山本 実

このたびの災害に対し、衷心よりお見舞い申し上げます。地域住民の皆様が安心した日々を送ることができるように、一日も早い復興をお祈り申し上げます。



多度津町長
丸尾 幸雄

荒波を越えて、各地に歴史と伝統と文化の発展をもたらした北前船。海を通じて結ばれた仲間のひとりとして、一日も早い復興を心より祈念いたします。



竹原市長
今榮 敏彦

この度の災害でお亡くなりになられた方々ならびに被害に遭われた皆様に心からお見舞いを申し上げます。被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。



白山市長
田村 敏和

能登半島地震並びに奥能登豪雨で被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。白山市はこれからも能登に寄り添い復興に向けて支援を続けてまいります。



泉佐野市長
千代松 大耕

泉佐野市は、皆さまの元気な笑顔が取り戻せるその日まで応援することをお約束するとともに、一日も早い復旧、復興をお祈り申し上げます。

糸



備前市長
吉村 武司

能登半島地震及び奥能登豪雨により犠牲になられた方に深く哀悼の意を表するとともに、一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。



美浜町長
戸嶋 秀樹

厳しさに屈せず、力強く歩みを進めておられる被災者の皆さんに敬意を表するとともに、一日も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。



村上市長
高橋 邦芳

被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。能登に穏やかな日常が取り戻せるよう応援して参りますとともに一日も早い復旧・復興を願っております。



岡山市長
大森 雅夫

被災された方々に改めてお見舞い申し上げます。現代の北前船ネットワークを生かした自治体の広域連携により、ともに復興に向けて取り組みましょう。

北國新聞 2024年11月22日

被災寄港地 後押し誓う

北前船ゆかりの地結束

日本遺産推進協

被災した北前船寄港地の後押しを誓った。日本遺産「北前船寄港地・船主集落」がある52自治体で構成する北前船日本遺産推進協議会の記念大会が21日、加賀市内で開かれ、復旧復興の願いを込めた色紙が能登半島地震、奥能登豪雨で被災した加盟自治体の輪島市、志賀町などに贈られた。全国の真良らは北前船ゆかりの地が結束して支えていくことを確かめ合った。



大森岡山市長（中央右）から復旧復興の願いを込めた色紙を贈られる坂口輪島市長（同左）＝加賀市内の旅館

加賀で記念大会

大会では、推進協議会長の宮元陸加賀市長が「全国からの支援に感謝を伝え、みんなの力で乗り越えていこう」と呼び掛けた。坂口輪島市長、間堀正剛志賀町教育長が被災状況を説明

小浜市、秋田県からほ市、岡山県備前市がそれぞれの活動、追加認定された福井県美浜町、新潟県村上市、岡山市が日本遺産を活用し、能登の「アマメハギ」が採用された。北前船交流拠点の宮元加賀市長、中村保福

井嶋副知事、馳浩石川県知事、坂口輪島市長、同機構

の浅見茂専務理事らがい

さつした。

「紳」の文字が書かれた色紙を、大森雅夫岡山市長が輪島市、志賀町へ贈り、祭も行われ、北海道釧路町ひの宿「加賀百万石」を会場とし、全国の加盟50自治体から約140人が出席した。

小浜市、秋田県からほ市、岡山県備前市がそれぞれの活動、追加認定された福井

県美浜町、新潟県村上市、岡山市が日本遺産を活用し、能登の「アマメハギ」が採用された。北前船交流拠点の宮元加賀市長、中村保福

井嶋副知事、馳浩石川県知事、坂口輪島市長、同機構

の浅見茂専務理事らがい

さつした。

記念大会は被災地応援で、宮崎勝栄小松市長も歓迎した。都倉俊一文化庁長官が祝辞述べた。

石川から輪島、志賀、金沢、白山、小松、加賀の6市町、富山県内から富山、高岡の2市が参加した。

北前船寄港地フォーラム（北國新聞社後援）に合わせ、山代温泉の旅館「みやびの宿 加賀百万石」を会場とし、全国の加盟50自治体から約140人が出席した。

大会では、推進協議会長の宮元陸加賀市長が「全国からの支援に感謝を伝え、みんなの力で乗り越えていこう」と呼び掛けた。坂口輪島市長、間堀正剛志賀町教育長が被災状況を説明

用意したことを紹介した。

小浜市、秋田県からほ市、岡山県備前市がそれぞれの活動、追加認定された福井

県美浜町、新潟県村上市、岡山市が日本遺産を活用し、能登の「アマメハギ」が採用された。北前船交流拠点の宮元加賀市長、中村保福

井嶋副知事、馳浩石川県知事、坂口輪島市長、同機構

の浅見茂専務理事らがい

さつした。

北陸中日新聞 2024年11月22日

輪島市や加賀市など北前船にゆかりのある県内外52市町などが交流する「北前船寄港地フォーラム」が21日、同市山代温泉の旅館「加賀百万石」などを会場に始まった。

（小川祥）

フォーラムに先立ち、北島市としても荒波に挑み、前船日本遺産推進協議会の記念大会があり、関係市町が1月の能登半島地震からの復興に向けた継続的な支援を確認。協議会長の宮元陸・加賀市長は「これから能登の復興をみんなで支えていこうという思いを結集した行事としたい」とあいさつ。坂口茂・輪島市長はこれまでの支援への感謝を述べ、「北前船は荒波に立ち向かい、豊かさと文化を運んできた歴史がある。輪島文化を活用した能登半島地震か

輪島市や加賀市など北前船にゆかりのある県内外52市町などが交流する「北前船寄港地フォーラム」が21日、同市山代温泉の旅館「加賀百万石」などを会場に始まった。

（小川祥）

島市としても荒波に挑み、地震前よりも素晴らしいまちを目指す」と話した。

フォーラムは関係市町や航空、鉄道事業者らでつくる「北前船交流拡大機構」などが協力して開催。22日は同機構顧問で加賀市山中温泉の旅館「かよつ亭」の上口昌徳社長らによるトークセッションがあり、北前船文化と高付加価値化によるインバウンド（訪日客）の説明や、北前船文化を活用した能登半島地震か

52市町 誘客推進など意見交換

加賀で北前船フォーラム

能登半島地震の復興に向けた継続的な支援を確認した北前船日本遺産推進協議会の記念大会＝加賀市山代温泉の「加賀百万石」で



報道部	076(233)4613 代表(261)3111 FAX(265)7490
小松支局	0761(22)0343 FAX(22)0200
白山支局	076(275)0626 FAX(274)9105
七尾支局	0767(53)0498 FAX(53)6887
加賀通信局	0761(72)0433 FAX(72)0558
輪島通信局	0768(22)0306 FAX(23)8025
羽咋通信局	0767(22)0463 FAX(22)8022
津幡通信部	076(289)2331 FAX(288)8210
能美通信部	0761(57)1330

ツーリズムメディアサービス／（一社）地域連携研究所（新着情報）より転載
2024年12月27日



北前船日本遺産推進協議会記念大会in加賀、文化庁の都倉俊一長官らが能登半島被災地を応援



文化庁の都倉長官（前列中央）と全国から集まった52自治体の代表

日本遺産認定ストーリーである「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間北前船寄港地・船主集落」を活用し、関係自治体および団体が連携のもと、観光振興および地域活性化を推進する北前船日本遺産推進協議会は11月21日、「北前船日本遺産推進協議会記念大会 in 加賀」を石川県加賀市の山代温泉みやびの宿加賀百万石で開いた。元日に発生した能登半島地震で被災した輪島市や志賀町に応援メッセージを送るほか、活動報告、令和6年度に新たに日本遺産に認定された3自治体（福井県美浜町、新潟県村上市、岡山県岡山市）によるプレゼンテーションなどが行われた。会場には、文化庁の都倉俊一長官が駆け付けるほか、全国から国・自治体や観光関係者ら約200人が出席し、「北前船」を契機とした地域振興の取り組みを学んだ。

3部構成で能登半島地震の被災地への応援、活動報告の発表などを実施



北前船交流拡大機構の浅見茂専務理事

同大会は3部で構成。冒頭、北前船交流拡大機構の浅見茂専務理事が参加者のほか、会場に掲出された北前船の文字と共に震災で被災した石川県能登町、珠洲市、志賀町、輪島市に向けた全国50自治体の首長からのメッセージが寄せられた色紙について紹介した。色紙は、大会の中で各市町に贈呈された。

続いて、北前船の日本遺産認定に尽力した秋田県秋田市の納谷信広観光文化スポーツ部長、北前船交流拡大機構の中野秀治上席研究員の2人に感謝状を授与。

納谷部長は、2017年の文化庁の申請や、北前船の魅力あるストーリーづくりを中心的に担った。中野上席研究員は、最初に登録された11市町の構成文化財の全てを視察し、申請の業務全般を担った。

納谷部長は、「平成28年に11の自治体から学芸員が集まり、申請の準備を始め



秋田県秋田市の納谷信広観光文化スポーツ部長



北前船交流拡大機構の中野秀治上席研究員

た。秋田公立美術工芸短大（現秋田公立美術大）の学長を務めた故石川好先生や文化庁の調査官から丁寧にご指導いただいた。北前船の最大の魅力は北前船が特別な場所を作ったことであり、ぜひ多くの人にその歴史や育まれた異空間をみてもらいたい」と話した。中野上席研究員は、「北前船のストーリーは4つから成り立っており、歴史や特徴がしっかりと伝わるものとなっている。申請そのものも大変だったが、27の市町の追加申請をした2年目がもっと大変だった。文化庁からは指摘もあったが、力強い支援をいただきながら、現在では52の市町となっている。協議会とフォーラムは両輪であり、走り続けていきたい」と述べた。

52の自治体代表があいさつ



石川県加賀市の宮元陸市長

第1部では、北前船日本遺産推進協議会52の自治体代表のあいさつなどが行われた。開会あいさつでは、北前船日本遺産推進協議会会长で石川県加賀市の宮元陸市長が「約30人の首長に出席いただいた。今回は、元日には震災、9月には集中豪雨に見舞われた能登の震災復興をどう支援していくかが目的だ。本日は、輪島市の坂口茂市長も来場されている。坂口市長をはじめ、被災地域を激励してほしい。今回の大会は、多くの支援をいただきことへの感謝の思いを表す式典である。日本人は情に厚い民族であり、その思いを結集した大会としたい」と開会を宣言した。



輪島市の坂口茂市長

歓迎のあいさつでは、坂口市長が「元日に震災が発生し、輪島市では167人が亡くなり、6割の方が住宅をなくした。また、9月21日には豪雨災害が起り、10人が亡くなり、5%の住宅がさらに失われた。たくさんの大切なものを失ったが、少しずつ復旧が進み、新たな出会いもできている」と支援をいただいた人、地域に謝意を述べた。地域の観光資源についても触れ、「輪島塗、輪島朝市、世界農業遺産である『輪島・白米千枚田』などで大きな被害を受けた。また、北前船の船主が住まわれて国的重要伝統的建造物群保存地区である黒島地区も被害を受けているが、支援をいただきながら前に進んでいる。豊かで素晴らしい安心して暮らせるような輪島市を目指していきたい」と話し、引き続きの支援を訴えた。



石川県志賀町の間嶋正剛教育長

石川県志賀町の間嶋正剛教育長は、「能登半島地震では震度7を経験し、甚大なる被害が発生した。1年を経過しようとしているが、被害家屋の解体は徐々に進み、少しずつ復興が進んでいる。先日、中学3年生による子ども議会が開催され、志賀町の復興に関わる前向きな提言がなされた。われわれ大人も前向きに、必ず元気な能登、志賀町を目指して復興に邁進していく」と復興への決意を述べ、北前船関連については、福浦港で当時の佇まいが残る家屋の復元、北前船関連の資料を展示する施設づくりに着手していることを紹介した。



石川県小松市の宮橋勝栄市長

石川県小松市の宮橋勝栄市長は、能登半島地震への支援の謝意を述べた後、日本遺産関連の取り組みを紹介。宮橋市長は「小松市単独で石の文化に関する日本遺産を平成28年に認定いただいている。北前船に関しては平成30年に仲間入りをさせていただき、安宅住吉神社や安宅まつりなどの構成文化財がある。市制100周年を目指した2040年ビジョンを昨年に策定したが、メッセージの一つに『裏日本からの挑戦』という言葉を入れた。ネガティブに見える言葉だが、あえてそこに着目し、反骨心を持ちながらまちづくりに取り組んでいく。裏には裏技、裏メニュー、裏話など、特別な意味がある。今こそ日本の原風景、本物の日本が残る地域を見てもらいながら、次の世代に受け継いでいきたい」と、今後の挑戦を語った。

文化庁の都倉長官が北前船との連携を強調



文化庁の都倉俊一長官

来賓として文化庁の都倉長官があいさつ。都倉長官は、「能登半島に心からお悔やみを申し上げる。4月の終わりに伺ったが、輪島塗においては、親しくしている工房が焼けて跡形もなく消滅してしまった。言葉では言い表せないが、被災者からは、『この悲劇、惨劇は取り返しがつかない。先祖代々からの漆の壁などは全て消滅したが、輪島塗の誇り、伝統技術はなくすことはない』と言われた。創造的復興という言葉を先程聞いたが、輪島の人たちの気持ちを表している。日本の宝を消滅させる訳にはいかない。「日本遺産」は、文化の力で地域の活性化を図るものだ。47都道府県では104件の日本遺産が認定されているが、遺産には歴史的な背景、ストーリーがある。皆さんの活動が日本遺産の価値を上げており、北前船のような組織はほかになく、ぜひ力を合わせて隆盛を図っていきたい。」とさらなる連携を誓った。

能登半島地震被災地への激励あいさつ

第2部では、北前船日本遺産推進協議会の代表として、7つの自治体代表が、それぞれ能登半島地震被災地に対する激励のあいさつを行った。



岡山県岡山市の大森雅夫市長

岡山県岡山市 大森雅夫市長「能登の震災後、能登はどうなるのかと思ったが、この思いは国民の全てが持ったのではないか。創造的復興という話があったが、こういう時こそ52の自治体を有する北前船のネットワークが協力し合い、復興を手助けしていくなければならない。岡山市では実質的に400人以上、延べ約3,000人の人を派遣した。まだまだ長い被災地での闘いとなるが、必要な限り応援していきたい」



秋田県男鹿市の菅原広二市長

秋田県男鹿市 菅原広二市長「古来より能登と男鹿は極めて近い所だった。改めて能登半島の災害に対してお見舞い申し上げる。男鹿半島は全国で23ある半島のうち、ただ一つ単独の自治体で構成されている。美しい景観、食、そしてなまはげの文化といった世界に誇れる魅力があるが、発信力が不足している。全国の昔輝いた方が皆で力を合わせることで素晴らしい無限の可能性がある。皆で力を合わせて地域の魅力、震災の現状を発信していきたい」



青森県野辺地町の野村秀雄町長

青森県野辺地町 野村秀雄町長「能登半島での地震、豪雨とその心中を察するに余りあるものがある。昨日、全国の町村会が行われたが、町村会挙げて能登半島の応援をすることに大きな拍手をいただいた。私は船主の子孫であり、過去には北前船フォーラムを実施させていただいたこともある。52の市町村が手を組み、羽ばたいていきたい」



青森県鰺ヶ沢町の平田衛町長

青森県鰺ヶ沢町 平田衛町長「元日の能登半島地震、そして集中豪雨で犠牲になられた皆さまの冥福を心からお祈り申し上げる。一昨年には、鰺ヶ沢町も豪雨災害があり、町の中心部の400棟以上が浸水被害を受けた。その際は全国から物心両面にわたり支援をいただき感謝している。被災してみると心温まる支援が何よりも支えになる。志賀町の福浦港には鰺ヶ沢町の船が当時は何回も出入りするなど、北前船を通じて能登と鰺ヶ沢町には深いつながりがある。結ばれた絆を連携協力しながら盛り上げていきたい」



秋田県由利本荘市の湊貴信市長

秋田県由利本荘市 湊貴信市長「この度の災害については、被災された皆さまに心からお見舞いを申し上げる。秋田県にも7月24日に豪雨があり、由利本荘市が一番被害にあった。いまだに私道だけでも54路線が通行止めという状況にあるが、やっと復興に向けてスタートを切れている。東日本は雨の被害がほとんどなかった地域で雨に弱い町だったが、復興に向けては原状復帰に留まらず、今まで以上の立派なものを築くことが必要で、皆さまとネットワークを生かしながら全力を挙げて取り組みを進めてまいりたい」



新潟県佐渡市の渡辺竜五市長

新潟県佐渡市 渡辺竜五市長「これまでに輪島、珠洲とは数えきれないぐらい会話をしており、その一つが平成23年の世界農業遺産での取り組みだ。国連大学、東京大学を含めて認定に向けて一緒に取り組んできたことは素晴らしい思い出だ。もう一つ、トキの放鳥を通じた取り組みもある。歴史・文化がある能登の復興に向けて出来る限りの応援はしていく。トキが一つのシンボルになり、皆さんと一緒に明るい未来を作っていく。佐渡は7月27日に晴れて世界文化遺産登録となった。北前船の文化が佐渡島の金山を支えていたことも申し上げておきたい。文化遺産も連携しながら、皆さまと一緒に頑張って参りたい」



北前船交流拡大機構の浜名正勝参与

北前船交流拡大機構 浜名正勝参与「北海道から函館、松前、小樽、石狩の4カ所が参加している。能登とは北前船を含めて大きなつながりがあり、今も続いている。私は珠洲市の出身で、大学から北海道に渡った。災害を機に改めて故郷に恩返しをしたい。小さい頃に遊んだ海が荒れ、建物が壊滅した。ありとあらゆる知恵を生かして、大切な能登の復興に頑張っていきたい。また、昆布の収穫において危機を迎えている。海にもっと関心をもってもらうことなど、北前船の新しいテーマとして取り組んでいくことを提案したい」

活動の成果、今後の展望を各地域が発表

第3部では、各自治体からの活動報告のほか、令和6年度日本遺産認定3自治体からのプレゼンテーションが行われた。活動報告は3つの地域が発表した。



福井県小浜市の杉本和範市長

福井県小浜市の杉本和範市長は「小浜市 日本プレミアム認定『御食国若狭と鯖街道』」をテーマに、「海のある奈良」と例えられる、海外・日本海沿岸諸国・都との交流を示す文化遺産群について説明。古代から、今も、鯖街道を通じて、都の食を支える御食国若狭として、①都で珍重される若狭もの②若狭とつながり都で継承される食文化③都とのつながりの中で生まれ、継承される優れた加工技術—などを紹介した。また、取り組みの成果として、地域活性化については「鯖街道」をテーマに改修した道の駅で前年比で1億超の売り上げが増加したことや、非公開であった文化財の観光拠点化、文化価値の明確化と発信により文化資源の保存活用が進んでいること、伝統的古民家ホテルの開業・多言語化で訪日外国人宿泊者の増加など魅力向上・来訪者増加につながっていることを発表した。



秋田県にかほ市の市川雄次市長

秋田県にかほ市の市川雄次市長は、「北前船が繋いだ泉佐野市ににかほ市のご縁」をテーマに取り組みを披露。着床式洋上風力発電所（秋田港）の様子や、TDK創業者とのゆかりの話、2021年4～9月にJR東日本と連携して取り組んだ東北デステイネーションキャンペーン（DC）の成果、天然記念物である象潟がある近年の九十九島周辺の耕作放棄地の状況、城下町・羽州街道の宿場町で北前船の寄港地として栄えた地に蔵を持つ飛良泉本舗、にかほ市に残る食野家の墓石、泉佐野市との連携による昨年11月に行われた関西地区での北前船寄港地による関西北前船研究交流セミナーの開催、道の駅象潟「むねの丘」で行った泉佐野市との相互交流による特産品の販売についてなど、地域の歴史・文化や魅力、取り組みを紹介した。



岡山県備前市の吉村武司市長

岡山県備前市の吉村武司市長は、「現代版北前船の取り組みについて」をテーマに登壇。建造中である現代版北前船について紹介。デザインは日本を代表する工業デザイナーである水戸岡锐治氏が備前オリジナルのデザインとして手掛け、来年の大阪・関西万博、瀬戸内国際芸術祭2025に合わせて建造が進められている。縦が約7m、横が約5mの帆には、岡山藩主であった池田家の家紋であるアゲハ蝶などがデザインされ、客室には木目の壁に重厚なソファーやテーブルなどが並べられる。乗船中には食事などを楽しめる空間が設けられる予定だ。吉村市長は、「北前船寄港地全ての関係市町の夢をつむぐことになる。全国の各地域でも現代版北前船を作り、観光客の誘客に努めてほしい」と呼び掛けた。

令和6年度日本遺産認定3自治体からのプレゼンテーションは、「北前船日本遺産を活用した新規認定3市町の地域活性化の取り組みについて」をテーマに代表者が発表。



福井県美浜町の戸嶋秀樹町長

福井県美浜町の戸嶋秀樹町長は、「認定に至るまでに多くの方に指導をいただきながら価値ある認定をいただくことができた。美浜町出身である歌手の五木ひろしさんに報告したところ、『美浜町に大きな魅力が増えた』と喜びの声をいただいた。北前船の認定を契機に皆が誇りを持ったまちづくりを進めていきたい」と話した。また、美浜町内に伝承館建設の検討を始めたことを明らかにした。



新潟県村上市の高橋邦芳市長

新潟県村上市の高橋邦芳市長は、「北前船日本遺産を活用した—まちづくり—」を題に、面積の約8割が山林等である村上市内には、山川海が集まる豊かな自然、おいしい食べ物、歴史・文化があることを紹介。高橋市長は、「3拍子そろった笑顔のまち」であることを強調した。村上市には、「村上大祭（7月）」「瀬波大祭（9月）」「岩船大祭（10月）」といった伝統と文化を継承する祭りのほか、北前船が運んだ産物である塩引き鮭や村上茶、村上牛、岩船麩、岩船米といった食、国内最大級の屋内スケートボードパーク、村上・笹川流れ国際トライアスロン大会などスポーツといった魅力が点在している。



岡山商工会議所の松田久会頭

岡山商工会議所の松田久会頭は、「岡山市西大寺と北前船」を題に、高野山真言宗別格本山金陵山西大寺（観音院）の門前町として発達してきた岡山市・西大寺が1250年の歴史を持ち、古くから開かれた市場が発達した商業の町であることや、地域のまちづくり団体として（一社）西大寺活性化協議会が立ち上がっていることを紹介。同協議会について、松田会頭は「『いつまでも住み続けたい歴史が息づく愛着の持てるまち』を目指している。会員は276人に達し7つの委員会に分かれて西大寺の活性化を図っていく」との方針を披露した。



広島県尾道市の平谷祐宏市長

閉会のあいさつでは、北前船日本遺産推進協議会副会長で広島県尾道市の平谷祐宏市長が「能登半島での震災、豪雨で被災された方々には心からお見舞いを申し上げる。尾道市も平成30年に発生した西日本豪雨の際には土砂崩れなどの被害が報告され、市内全体で断水が1週間を超えるなど、市民生活に深刻な影響を与えた。その際には加賀市がふるさと納税の復興支援サイトを開設していただくなど、北前船寄港地の皆様方をはじめ、多くの皆さまから暖かい支援をいただいた。今回の大会、地域連携研究所大会、北前船寄港地フォーラムが能登半島の災害復興の一助になることを祈念している。現在は、全国52自治体による国内最大規模の日本遺産であり、広域連携がさらに進むことを期待している」と話して大会を締めた。



JAPAN HERITAGE
日本遺産

荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間 ～北前船寄港地・船主集落～

日本海や瀬戸内海沿岸には、
山を風景の一部に取り込む港町が点々とみられます。
そこには、港に通じる小路が随所に走り、
通りには広大な商家や豪壮な船主屋敷が建っています。
また、社寺には奉納された船の絵馬や模型が残り、
京など遠方に起源がある祭礼が行われ、
節回しの似た民謡が唄われています。
これらの港町は、荒波を越え、
動く総合商社として巨万の富を生み、
各地に繁栄をもたらした北前船の寄港地・船主集落で、
時を重ねて彩られた異空間として
今も人々を惹きつけてやみません。



北前船日本遺産推進協議会 構成自治体

動く総合商社「北前船」

江戸時代・北海道・東北・北陸と西日本を結んだ西廻り航路は経済の大動脈であり、この航路を利用した商船は北前船と呼ばれました。北前船は、米をはじめとした物資の輸送から発展し、船主自身が寄港地で仕入れた多種多様な商品を、別の寄港地で販売する買い積み方式により利益をあげたことから「動く総合商社」と形容されています。日本海や瀬戸内海沿岸に残る数多くの寄港地・船主集落は、北前船の壮大な世界を今に伝えています。



北海道	函館市, 松前町, 小樽市, 石狩市
青森県	鰯ヶ沢町, 深浦町, 野辺地町
秋田県	秋田市, にかほ市, 男鹿市, 能代市, 由利本荘市
山形県	酒田市, 鶴岡市
新潟県	新潟市, 長岡市, 佐渡市, 上越市, 出雲崎町, 村上市
富山県	富山市, 高岡市
石川県	加賀市, 輪島市, 小松市, 金沢市, 白山市, 志賀町
福井県	敦賀市, 南越前町, 坂井市, 小浜市, 美浜町
京都府	宮津市
大阪府	大阪市, 泉佐野市
兵庫県	神戸市, 高砂市, 新温泉町, 赤穂市, 洲本市, 姫路市, たつの市
鳥取県	鳥取市
島根県	浜田市
岡山県	倉敷市, 備前市, 岡山市
広島県	尾道市, 呉市, 竹原市
香川県	多度津町

北前船日本遺産推進協議会記念大会 in 加賀
報告書
2024年11月21日（木）



北前船日本遺産推進協議会

北前船日本遺産推進協議会公式ホームページ



<https://www.kitamae-bune.com/>

北前船こだわり市場



<https://kitamae-bune-shop.com>

北前船日本遺産データベース



<https://kitamae-bune-db.com/db/>

北前船マルシェ

